

2022年12月8日  
一般財団法人自転車産業振興協会

## 世界自転車産業協会 年次総会開催

世界自転車産業協会（World Bicycle Industry Association=WBIA）は、2022年10月21日リモートでの年次総会を開催、その要旨を11月9日、同協会HPに掲載した。

それによると「WBIA 総会では、世界レベルで業界と市場の発展について議論した」として、構成団体出席者が各国の最新情報を提供するなど世界の市場動向について情報交換した。

世界の自転車産業は、COVIDにより引き起こされたロックダウンに支えられた記録的な2020年に続いて、2021年も成長を続けた。昨年議論を支配したサプライチェーンの混乱は依然として問題であるが、ほとんどのメーカーは並外れた消費者需要に支えられた楽観主義の高まりの中で、なんとか在庫を補充することが出来た。

一方で、来年は成長の冷え込みを伴うある程度の市場リバランスが予測される。WBIA 会長は「来年はエネルギー危機と困難な地政学的状況により、自転車業界にとって困難な年になるかもしれないことを承知している。しかし、我々はサイクリングに大きな関心を寄せており、それが消滅することはない。従って、我々は自転車業界の見通しについて非常に楽観的である」と述べている。

また、ピープルフォーバイクス（People for Bikes）の理事は、米国市場について「昨年の販売台数は頭打ちとなったが、市場価値は強いと考えている。重要なことは、米国でのサイクリングへの参加はパンデミック前より高いレベルを維持しており、人々がサイクリングを始めたならそれを止めることはないということである」との見解を述べた。

国連におけるWBIAの活動も相変わらず忙しい年であった。史上初のサイクリング促進のためのヨーロッパマスタープランの採択に続いて、WBIAの積極的な参加を得て、サイクリングインフラに関する新しい専門家グループが結成された。

とりわけ、国連の専門家グループは、世界中のサイクリストとサイクリングインフラの標識や信号の調和、サイクリングに関連する定義と基準の改善に取り組

んでいる。例えば、WBIA には「サイクル」の新しい定義を提案する責任があり、グローバルな定義の観点から電動自転車の台頭を公式に認めるための国連規則の拡大を可能にすることである。

さらに、WBIA は交通弱者の安全性に特に焦点を当てた自動運転車及びコネクテッドカー通信に関連する新しい規則や規制提案について、引き続き議論した。自動車やトラックの自動緊急ブレーキ、情報認識、死角情報システムのさらなる開発は、あらゆる場所のサイクリストの安全に大きく貢献する可能性を秘めており、常に改善されている。「自転車業界はダイナミックに発展しており、グローバルな規制ソリューションを模索することはこれまで以上に重要である。WBIA が国連のテーブルに着き、我々の声を代表し、将来の規則が業界のさらなる成長に有利であることを確認することを認識しているのは素晴らしいことである」とロシア自転車自動二輪車産業協会 (Bicycle and Motorcycle Industry Association of Russia) の理事は述べている。

重要なのは、電動スクーターなどの新しいパーソナルモビリティの台頭に対し、国連の規制の枠組みの中、どのようにアプローチするかについて対話が進行中であるということである。WBIA は、自転車がそうした電動車と明確に区別されるよう、引き続き取り組むと同時に、路上での存在感の高まりを反映した将来性のあるルールの開発を支援していく。

モビリティの将来についても広範な意見交換が行われ、国際的な専門家が世界的な持続可能な開発目標を達成する上でのサイクリングの重要な役割を強調しており、WBIA の専門知識はここでも重要な役割を果たしている。

全インドサイクル製造業者協会 (All India Cycle Manufacturers Association) 会長は「インド内外でより環境に配慮した e モビリティソリューションが登場し、モビリティに地殻変動が生じている。新興経済と若年層の増加により、インド人はさらに多くのサイクリングを受け入れるようになっている。我々は自転車業界の未来に自信を持っている」と答えた。

国連での活動に加えて、WBIA の活動に新たに加えられた主なもののひとつが、主要市場から市場情報を収集する初の WBIA グローバル市場レポートである。

自転車協会 (Bicycle Association Japan) の副理事長は「WBIA がこのような先駆的な研究に取り組むことを決定したことを嬉しく思う。世界中の自転車業界の専門家がこのグローバル市場レポートを歓迎するであろう」と述べた。

現在、2021 年データを含む 2022 年のレポートが準備の最終段階にあり、今後数週間以内に公開される予定である。このレポートは、世界の自転車市場の発展

の包括的な概要を提供することを目的として、毎年発行されることになる。

最後に、構成団体出席者は、次のWBIA総会がユーロバイク2023（フランクフルト）でリアル開催されることに合意した。

台湾自転車協会（Taiwan Bicycle Association=TBA）の事務局長は「WBIA加盟国団体と直接会することを今から楽しみにしている。TBAの役割として、リアル展示会による業界の集まりはセクター内の雰囲気を経験するためには依然として重要であることを承知している。我々は、2年という長いロックダウンを経て、各団体がその活動の情報を交換し、共に祝う時が来た」と語った。

2023年においてもWBIAは世界の自転車業界を代表して活動を展開し続け、世界中のすべての人にサイクリングへの情熱をもたらすのに貢献していくことになる。

世界自転車産業協会は、ピープルフォーバイクス（米国）、台湾自転車協会、全インドサイクル製造業者協会、ロシア自転車自動二輪車産業協会、メキシコ産業協会、自転車協会（日本）及び欧州自転車産業連盟により構成されている。

以 上

出所：世界自転車産業協会